

2018 年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

【質問 1】

本学の 3 つのポリシー（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針）は、教育目標「『生涯就業力』を磨く」に基づき、整合性があるってわかりやすいですか。

評価 4 : 良い ③ : やや良い 2 : 普通 1 : やや不十分 0 : 不十分

評価の理由 :

貴学は、創立者河井道の教育理念を継承しつつ、2016 年度に現代社会を生きる女性の生き方を視野にいれた「『生涯就業力』を磨く」を新たな教育目標として定めている（報告書 p. 5）。この教育理念に沿って、大学としての 3 つのポリシーを定めている。

2016 年度に、新たに大学としてのディプロマ・ポリシー（以降、DP）を定めている。内容は「（1）国内外の社会・文化を理解する基礎的知識と見識を有し、論理的・批判的に考え、日本語で表現・発信する力を身につけている。（2）グローバル社会に通用する第二言語を習得し、多文化・異文化に開かれた豊かな国際感覚と共感力をもって、平和な社会の実現に積極的に寄与しようとする姿勢を身につけている。（3）土に触れ、いのちを育む生活園芸を通じて、多様ないのちとの共生と循環を体感し、多様な人々と偏見なく繋がり共生・協働しようとする態度を身につけている。（4）国内外での実践的な学修経験を積み、社会の課題に気づき、解決のためのシナリオを描く自律的な思考力と粘り強い姿勢をもって自ら行動し、学び続ける力を身につけている。」の 4 項目であり、学園の教育理念に沿った適切なものである（報告書 p. 30）。

各学部については、報告書 31 頁に示されているものに替えて、2018 年 6 月に新たに DP を改訂している（公式ウェブサイトより）。両学部の DP はいずれも、大学の教育目標と整合しており、内容も明確である。ただし、人文学部の新しい DP については、大学の DP に加えて、学部の教育の特徴を学生に示す部分が求められる（公式ウェブサイト）。2018 年 3 月には、新たに各学科の DP を定めている（公式ウェブサイト）。各学科の DP も教育目標に沿っており、内容も明確である。とくに、大学全体の DP に付随して「大学の 4 年間で身に付ける力」を具体的に分かりやすく表を用いて説明している点は（公式ウェブサイト）、学生の DP への理解を助けるものとして、評価できる。

大学院の 2 研究科については、いずれも適切な DP が制定されている。

カリキュラム・ポリシー（以降、CP）については、2017 年度に大学として定めたものを公式ウェブサイトに掲載している（報告書 34 頁）。さらに、学部ごとの CP は 2018 年 6 月に、学科ごとの CP は 2018 年 3 月に改訂し、公式ウェブサイトに掲載している（資料 4、公式ウェブサイト）。これらの CP はいずれも教育目標と整合しており、内

2018 年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

容も明確である。

大学院については、人文学研究科および平和学研究科とも、DPに基づいたCPが制定され、公式ウェブサイトに掲載されている（報告書 38 頁、公式ウェブサイト）。ただし、平和学研究科については、書きぶりが「～身につける」、「～取得する」となっており、DPで求めた能力を、カリキュラムのどの部分で養成するのかが明確でないので、改善が望まれる。

アドミッション・ポリシー（以降、AP）については、大学全体としてのものを適切に定めている（報告書 p. 80、資料 5-3）。学部・学科については、2018 年 6 月に改訂したものを、公式ウェブサイトに掲載している。学科ごとのAPも適切に定められている（報告書 p. 81-2、公式ウェブサイト）。「求める学生像」も明示しており、内容も適切であると考えられる。ただし、概して内容は「意欲」などについて述べるにとどまり、「修得しておくべき知識」などについては、英語コミュニケーション学科以外は、明確とはいえない。ただし、修得しておくべき知識については、各入学試験別の説明に示されている部分もあるので、さらなる工夫によりAPをより具体的なものにすることが望まれる。

大学院の両研究科についても、APはDP，CPと整合しており、分かり易く、適切に定められている（報告書 p. 83、公式ウェブサイト）。

今後、新しい教育目標である『生涯就業力』を磨く」を踏まえて、新たに定めた 3 つのポリシーをベースとして教育の充実が図られるものと期待できる。ただし、今後、『生涯就業力』と 3 つのポリシーがどのように繋がっているかを、より明確にすることが望まれる。

2018年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

【質問2】

本学の教育課程は、教育課程の編成・実施方針及び教育目標「『生涯就業力』を磨く」と整合性があるってわかりやすいですか。

評価 ④：良い 3：やや良い 2：普通 1：やや不十分 0：不十分

評価の理由：

学士課程の教育課程は、全学部・全学科に共通する「共通科目」と「専門科目」から構成されている。共通科目には貴学の教育理念に沿った科目群が設置されている。また、共通語学、キャリアデザイン科目も、生涯就業力育成に通じるものと考えられる。とくに「共通基礎」科目群は、貴学の理念である聖書、国際、園芸を学ぶ科目群と位置付けられる。「専門科目」は学部内共通の「学部専門基礎」と「学科専門教育」から構成されている。専門レベルでの多様な科目が系統的に配置されて学生の多様で体系的な学びを可能としている。また、各学年に設置されている「演習」が自主的学びでありまた、発信する力の育成の中心となり、多様な学びと結び合わさって段階的に教育目標を達成することを可能としている。実践的・体験的学びを取り入れるために、フィールドスタディ、サービスマーケティングなどを行う全学部特殊科目が設置され、体験学習委員会によって丁寧な運営がなされていることも貴学の教育目標「『生涯就業力』を磨く」を具現化する取組として評価できる。卒業論文・卒業制作、文芸創作あるいは卒業課題の必修化は、学士課程修了の質保証となるものであり、評価できる。また、2018年5月には「卒業論文コモン・ルーブリック」が定められ、卒論指導にもこれを活用する方針が示されたので、今後の卒業論文等の成果にそれが結実することが期待できる。

ただし、カリキュラム全体を見渡した場合、体系性がやや分かりにくいと言わざるを得ず、また、カリキュラムと『生涯就業力』の具体的関連について、学生により分かり易い説明を示すことが望まれるので、今後の改善に期待したい。

大学院については、修士課程を設置し、コースワークと、リサーチワークとしての「研究演習領域」を適切に組み合わせて、修士論文作成に導く教育課程を構成している。

以上のように、貴学の教育課程は、教育課程の編成・実施方針および教育目標と整合しており、内容的にも概ね適切である。ただし、現在検討途上であったり、これから実施されるものも含まれているので、今後も定期的に進捗状況を検証し、改善に繋げることが望まれる。

2018 年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

【質問 3】

本学は、教育成果について定期的かつ十分な検証を行っていると言えますか。また、その結果を教育課程や教育内容・方法の有効な改善に結びつけていると言えますか。

評価 4 : 良い 3 : やや良い ② : 普通 1 : やや不十分 0 : 不十分

評価の理由：

学長のリーダーシップのもと、教育内容の刷新に向けた取り組みを展開していることは、おおいに評価できる。しかし、新しい教育内容とその教育成果の検証およびそれに基づく改善を行うシステムは、現在、整備途上にあると言わざるをえない。

学士課程については、「授業評価アンケート」を学期ごとに全科目で行い、授業の成果を定期的に検証している。ただし、「授業評価アンケート」の結果をどのように授業の改善に結びつけるかについては、各教員に任せられている。また、2015 年度には F D 委員会と I R 推進委員会によって「卒業生アンケート」を実施して、教育課程の改善につなげている（報告書 52 頁）。加えて、2015 年度春学期には全専任教員の担当科目について、「教員による授業振り返りアンケート」が授業方法改善ワーキングチームにより実施され、授業の実態を組織的に把握する試みが行われた。現在、教育内容・方法の改善全般については、F D・S D 委員会が新しい教育法の導入など改善についての検討を行い、教務委員会および関連する委員会による改善事項実施の検討が行われている。

今後は、F D 委員会および I R 推進室との連携により、大学全体でアンケートの果を組織的に授業改善に繋げるシステムの構築が望まれる（報告書 55 頁、資料 4-3-32）。

大学院修士課程については、大学院改革小委員会が「学生ヒアリング」を行い教育成果の検証と改善の方策の検討を行っている（報告書 66 頁）。

アンケートなどを通して、教育成果を検証し、様々な改善につなげる努力がなされていることは評価できるが、今後、より直接的かつ客観的なデータの収集・分析に基づく検証方法を開発することが望まれる（報告書 65-69 頁）。アンケート結果の活用などについては、「学長室会議」のもと「改革企画会議」から派生した課題別チームで検討がなされており、また、今秋から PROG テストの活用による検証も実施予定であることから、今後、教育成果の定期的検証とそれを改善につなげるシステムが構築されることを期待する（回答資料）。

2018 年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

【質問 4】 本学の教育において、教育目標『生涯就業力』を磨く』に沿った成果があがっていると言えますか。

評価 4 : 良い ③ : やや良い 2 : 普通 1 : やや不十分 0 : 不十分

評価の理由 :

学士課程については、学修成果の測定は、学位授与状況（報告書 71 頁、資料 4-4-2）、卒業論文の執筆状況（報告書 74 頁、75 頁）、学生自己評価アンケート（報告書 74 頁）、卒業生（卒業予定者）アンケートなどによって、行われている。『生涯就業力』を磨く』という新たな教育目標（2016 年制定）を踏まえて定めた DP に沿ったカリキュラムを実施する以前の入学者ではあるが、学位を取得する学生が 8 割を超えていること、2012 年度以前入学者は必修ではなかったが卒業論文を提出するものが 5 割を超えていること、また、2013 年度入学生より卒業論文・卒業制作、文芸創作あるいは卒業課題が必修化されたことから、学びの成果は概ね上がっていると考えられる。また、2016 年 3 月に実施した「卒業予定者アンケート」では、教育目標、DP に沿った力が身に付いたかを尋ねている。その結果は、報告書 74 頁に記載されているように、8 割近い学生が肯定的に回答している。とくに、態度・志向性に属する「共感力」「傾聴力」「多文化理解力」「協力性」では肯定的回答が 9 割に達している。ただし、社会人基礎力や自己肯定感の測定は難しい側面があるが、新しい DP・CP に基づくカリキュラムで学ぶ学生について、『生涯就業力』、とくに実践的学びの成果、国際性を身に付けられたかなどについて、アンケート項目の改善のみならず、PROG も含めてより客観的な指標を開発して、データに基づいた教育の成果を検証することが期待される。

大学院については、人文学研究科は 2016 年 3 月修了生から、平和学研究科は 2018 年度 9 月修了生から「修了生アンケート」を実施して、学習成果の測定を行い、学生の満足度は高いということである。

今後は IR 推進室のデータ分析結果を大学全体として活用し、新しい教育態勢による学習成果の分析結果を教務委員会、就職進路委員会、研究科委員会、教授会で共有し（報告書 71 頁）、組織的に教育内容の改善に繋げることを期待する。

2018 年度恵泉女学園大学外部評価（最終報告）

【質問 5】

本学の社会連携・社会貢献活動は、大学の方針及び教育目標『『生涯就業力』を磨く』に沿い、適切な活動をしていると言えますか。

評価 ④：良い 3：やや良い 2：普通 1：やや不十分 0：不十分

評価の理由：

貴学は、2016年に、社会連携・社会貢献に関する方針を「本学の教育・研究成果を社会に広く開示・発信し、グローバルな視野を持つ市民の知的好奇心と関心に応えるとともに、地域社会のニーズに応じた活動を提供していく。」と定め、公式ウェブサイトで公表している。また、恵泉女学園中期計画（2015～2018）「100周年にむけて」（資料1-4、34頁）において、4つの柱の一つである「社会への発信」のなかで、上記の方針に沿った具体的施策を定めている。「生涯就業力」という言葉は掲げられていないが、内容的にはこの教育目標に沿った適切な社会連携・社会貢献活動が行われていると言える。とくに、「恵泉英語教育研究会」、「恵泉お話を語る会」、「恵泉小野路里地里山プロジェクト」は、貴学の『『生涯就業力』を磨く』という教育理念に沿って行われている、地域と学生を結ぶ有益な取り組みであり、参加した学生の協力性の養成に繋がっており、高く評価できる。また、多摩市および町田市と個別に包括協定を結んで実施している様々な取り組みも社会貢献として高く評価できる（報告書114頁、資料8-16-35）。

以上のように、貴学は教育目標『『生涯就業力』を磨く』に沿い、適切な社会連携・社会貢献活動を実施していると考えられる。